“小さな群れよ、恐れるな。あなたの父はよろこんで神の国をくださる”（ルカ１２－２３）

小さな群れ

カトリック美唄教会
２０２１年１２月　№295
２０２１年１１月２８日発行

待降節とクリスマス（降誕祭）とは？

主任司祭　ナルチゾ神父

教会では、クリスマス（降誕祭）の４つ前の日曜日からクリスマスを準備する期間に入ります。カトリック教会では、この期間を「待降節」と呼んでいます。

さて待降節は、イエスの降誕を待ち望む季節です。わたしたちの希望、わたしたちの人生における希望の光となって下さるイエス・キリストの誕生を待望する季節です。日々の中に注がれる神様の恵みを確認し、希望に感謝しながら救い主の誕生を喜び祝うクリスマスの準備をして参りましょう。クリスマスはキリストの誕生、すなわち神のひとり子キリストの誕生を思い起こす日として古代から祝われてきました。

イエスがいつ生まれたか、聖書には何も書いてありません。12 月 25 日がイエスの誕生の日とする最古の記録は、４世紀のローマの「殉教者帰天日表」です。しかし昔は、地方によって１月６日に祝っていました。ちなみにロシア正教会は、今でも１月はじめにキリストの降誕を祝います。ではなぜ、ヨーロッパのクリスマスは、12 月 25 日に祝われるようになったのでしょうか？つぎの説が、有力であるといわれています。昔むかしローマ帝国内では、太陽崇拝が広く行われていました。ローマ暦では 12 月 25 日が冬至で、この日を太陽誕生の祝日として祝っていたそうです。教会はこの祭日を取り入れ、「正義の太陽」であるキリストの誕生の日として祝うようになったそうです。

救い主となる方が、馬小屋として使われる洞窟で生まれ、飼い葉桶に寝かされるとは、奇妙な話に聞こえるかもしれません。しかし、むしろ、イエスキリストの本性的な小さく貧しい者としての姿を示すものだと教会は考えております。

イエスは、まったく無力なものとして、わたしたちの隣人でありました。そしてその無力さの先に神の愛を受け入れる器としてのいのちを示してくださいました。クリスマスが近づき待降節に入ると、多くの教会は馬小屋を飾り、誕生の場面を再現します。そしてわたしたちが救いの内にある喜びを思い起こします。

主任司祭　ナルチゾ神父

美唄教会　小さな群れ
2021 年 12 月　№295
2021 年 11 月 28 日発行

2021 年 12 月　主日ミサ・平日のミサ　予定

12 月　クリスマスの喜びと祝福

日	曜	ミサ		各種勉強会	会議・その他事項
		主日・祭日	時　間		
3	金		午前 10：30	ミサ後　聖書に親しむ	
5	日	待降節第２主日	午前 11：00		宣教地召命促進の日献金
10	金		午前 10：30	ミサ後聖書に親しむ	
12	日	待降節第３主日	午前 11：00		ミサ後　運営委員会
17	金		午前 10：30	ミサ後聖書に親しむ	
19	日	待降節第４主日	午前 11：30		
24	金	降誕前夜祭 砂川教会にて （午後７時より）	美唄でのミサは ありません		
25	土	主の降誕	午前 11：00		
26	日	聖家族	午前 11：00		

2022 年１月　年始ミサ　予定

日	曜	ミサ		各種勉強会	会議・その他事項
		主日・祭日	時　間		
1/1	土	神の母聖マリア	午前 11：00		
1/2	日	主の公現	午前 11：00		

《　平日のミサ　》　**金曜日のみ　午前 10：30**　3・10・17・日です
《 聖書を親しむ 》　平日のミサ後、旧約聖書に親しんでみませんか。

霊名の祝日（敬省略）	清掃当番	花　当番
１３日　ルチア　葛西道子、山内亜子 １５日　クリスチアナ　菅野美月	**第２週**　板垣　小川（ま） **第４週**　中村	東

【お知らせ】
◎１２月～３月までの第３水曜日のロザリオの祈りはお休みになります。
◎今年のツリーの飾りつけは行いません。
◎宣教地召命促進の日は特別献金です。

【幼稚園】
◎12 月 １ 日（水）新年度入園受付開始
◎12 月 12 日（日）聖劇発表会
◎12 月 14 日（火）誕生会（聖堂にて）

幸せへの 10 の秘訣

September12,2014【バチカン 7 月 29 日 CNS】

ゆったりと構え、寛大にないことや、平和のために働くなどが、教皇フランシスコお勧めの幸せに生きるこつだという。

アルゼンチンの日刊紙「クラリン」日曜版の付録雑誌「ビバ」7 月 27 日付に載ったインタビューで、教皇は人生をより幸せにするための 10 項目を挙げている。

1 互いにゆるし合う

持ちつ持たれつ。誰もがこの原則に従うべきで、平和と幸せへの第一歩だと教皇は言う。

2 人のために自らをささげる

心を開いて他の人に寛大になる。「自分の殻に閉じこもってしまうと自己中心的になってしまう危険があります。そして、よどんだ水は腐ってしまいます」

3 落ち着いて行動する

高校で文学を教えていた教皇は、アルゼンチンの作家リカルド・グイラルデスによる小説の主人公「ドン・セグンド・ソンブラ」が自らの人生を振り返る場面を引き合いに出した。「主人公は、若い頃の自分は岩だらけの渓流のようで、大人になると急流の川、そして高齢になると流れてはいるがゆっくりと動く水のようだったと言っています」と教皇は語った・教皇は最後の「ゆっくりと動く」という表現が気に入っているとして、「親切さと謙虚さ、落ち着きをもって人生を送っていく能力」を持つという意味だと説明した。

4 健全な余暇を過ごす

美術や音楽に触れ、子どもたちと遊ぶという過ごし方が失われてきたと教皇は指摘する。「消費主義は私たちに不安」とストレスをもたらし、「健全な余暇の文化」が失われてしまったと教皇は語った。人々の時間は「のみ込まれてしまい」、誰かと分かち合うことができなくなってしまう。

多くの親たちは、たとえ長時間働いていようとも、子どもたちと遊ぶ時間をつくるべき。仕事の都合で「難しくても、必ずそうしなければなりません」。

５ 日曜日は家族と過ごす

働く人は、日曜日は休むべき。「日曜日は家庭のためにある」と教皇は言う。

６ 若者たちの就職を助ける

若者たちのために尊厳を伴う雇用を創出する工夫をする。「私たちは若者たちのために何とか工夫しなければなりません。何の就職の機会もなければ、若者たちは薬物に走ってしまうか」、自死に向かいやすくなってしまう、と教皇は語った。

「食べていく支援とするだけでは不十分です」と教皇は指摘する。自ら働くことによって「家に食費をもたらすことができれば、尊厳を感じることができます」。

７ 自然を保護する

「創造を保護しなければならないのは、私たちは何もしていません。これは私たちにとって最重要課題の一つです」

８ 良くないことはすぐに忘れる

「他の人を悪く言う人があるということは自尊心が低いことを示しています。つまり、自分は気分が良くないので、他人をおとしめることによって自分を持ち上げようとするのです。良くないことはすぐに忘れる方が健康的です」

９ 他の人の信条を尊重する

「私たちは証しによって他の人に刺激を与え、コミュニケーションを続けることで互いに成長することができます。何より最悪なのは改宗を迫ることです。それでは動けなくなってしまいます。『私はあなたを説得するために対話をしている』と言うのではいけません。

誰でも始めに自分のアイデンティティー（独自性）を示してから対話に入ります。教会は引きつけることで成長するのであって、改宗を迫るものではありません」

10 積極的に平和を求める

「私たちは戦争が多い時代に生きています。平和への訴えを叫ばなければなりません。時に平和はおとなしくしていることという印象を与えますが、決して静かなものではないのです。平和はいつも活動的なものです」